議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町2751　　電話 371-0423
FAX 371-2469
2015.1.8　№２１１

2015年を前進の年に

昨年末の衆議院選挙で、日本共産党は比例の得票606万票、21議席へと大躍進しました。鈴鹿市でも選挙区（中野たけし）9,254票、比例代表7,313票と大きく得票をふやしました。そして比例東海ブロックで目標とした２議席、もとむら伸子さん、しまづ幸広さんを国会へ送り出すことができました。

衆議院・参議院とも議案提案権を得た党国会議員団の真価は、これから開かれる通常国会でしっかり発揮されることでしょう。安倍政権の暴走をゆるさず、国民の声によって動く政治へ大きな一歩をふみ出します。

こんどは春のいっせい地方選挙で日本共産党躍進を

この4月、鈴鹿市では県知事選・県議選・市長選・市議選が行われます。市議選では私も、８回目の選挙に挑戦します。28年の経験を生かし、市民のいのちと暮らしを守るために全力をあげます。市民の皆さんの、これまで以上のご支援をいただきますよう、よろしくお願いします。

衆議院選挙、後援会の皆さんが元気にがんばりました。（ベルシティ前交差点で大宣伝）

コメ暴落、水田農業続けられるか

12月議会一般質問で、私は「水田農業の見通し」について質問しました。今年の米価暴落が、農家を直撃しています。農協の委託販売・前払い概算金が１俵当たり3000円前後下がり、前年の下落と合わせて2年間で約5000円も下がりました。

水より安いコメ価格、ペットボトル１本60円!?

通算111回目の質問に立つ

三重コシヒカリが１俵9500円。これを500mlのペットボトルに詰めると１本当たり60円、ミネラルウォーターより安くなる計算です。相対取引価格（農水省調べ）でも14年10月で11,310円。第2次安倍内閣発足の12年12月の15,752円から下落の一途をたどっています。

コメの生産コストは１俵16,236円、種籾や肥料などの物的費用だけでも9,666円とされているのに、それにも満たない米価では、やっていけないのは明らかです。

政府は直接支払交付金打ち切り、生産調整も廃止

この米価暴落のときに、安倍内閣は有効な対策をとるどころか、農家への直接支払交付金（１反当たり15,000円）を半減、17年に打ち切りを決め、また生産調整（減反）も17年に廃止しようとしています。政府は「大規模化」と「市場まかせ」を言うだけで、苦境に陥っている農家を切り捨て、生産意欲を失わせ、コメ作りを続ける道を閉ざしています。

農業生産への所得補償は、どこの国でも行っていることで、国民の食糧の安定生産には不可欠です。中小の農家だけでなく、大規模経営農家や集落営農組織ほど所得に占める所得補償の割合が大きいのが実情で、これを打ち切ることは全ての農家の経営を行き詰まらせることになります。

鈴鹿市としても、農業委員会や農協など関係機関による「鈴鹿市農業再生協議会」を中心に、少しでも有効な助成金制度の活用をすすめたり、地産地消の取り組み、集団転作への市単独助成金（１反18,000円）を継続するなどの対策を行ってはいますが、「経営の持続が困難な、深刻な局面」に変わりはありません。国の農政の根本的な転換が求められています。

鈴鹿サーキット１周、55分55秒

ぶじゴールして完走証を手に

恒例の鈴鹿シティマラソンに、今回も出場しました。サーキット１周5.6キロを相棒（妻）とゆっくり走り（歩き）、初冬の景色を楽しみながらゴールイン。完走証に記されたタイムは、なんと「55分55秒」というラッキーな数字！

しかし、このタイムをよくよく分析してみると、相棒の５分後女子スタートを待っていたので、実質は51分なのですが、例年のしっかり走り通して約40分という記録と比べると、ほとんど歩いてカメラの前だけ走った今回と、10分ほどしか差がない！つまり歩いても走っても大差ないことが判明したのです。つまり私にとって「ランニング」も「ウォーキング」も同じ意味だったのでした。

鈴鹿スポーツガーデンは誰のものか?

昨年10月から突然、名前が「三重交通Ｇスポーツの杜鈴鹿」と変わった県営鈴鹿スポーツガーデンについて、質問しました。県が「ネーミングライツ」（命名権）を導入して募集、年500万円で10年間、この「愛称」を使うことになったとのことですが、まるで三重交通が建てた施設かと誤解するような名称には違和感があります。

各所に付けられた「愛称」看板

20億円も負担した鈴鹿市は、意見を言うべきだ

スポーツガーデンの建設時に、鈴鹿市はどれだけ財政支援をしたかとの問いに、市は約20億円と答えましたが、市民に長年親しまれてきた名前がこの「愛称」になって、鈴鹿市に何かいいことがあるのかとの問いには、まともな答えはありませんでした。また、県からの名称変更方針の連絡に対しては、「鈴鹿」という文字は入れるようにとだけ要請したとのことでした。私は、県がカネで名前を売るというのなら、20億円もカネを出した鈴鹿市民の意見を聞くべきだ、市は名前を変えるなと言うべきだと求めました。

ずいそう

バンクーバーの朝日

映画「バンクーバーの朝日」は、戦前にカナダへ渡った移民・日系２世の野球チーム「バンクーバー朝日」が、貧困・差別・排斥を乗り越えてたたかい、ついにリーグ優勝したという史実にもとづく物語である。「朝日」の活躍は、日系移民に勇気と希望を与え、カナダと日本の架け橋ともなった。しかし、真珠湾攻撃・開戦によって日系人は「敵性外国人」として強制収容所に送られ、「朝日」チームも消滅し、その輝かしい記録と共に歴史に埋もれてしまう。「朝日」がふたたび脚光を浴びるのは2003年、カナダ野球殿堂入りとなってから。そして日本ではチーム誕生100周年の2014年、この映画制作によって初めて、多くの日本人に知られることになったのである。

わが曾祖父・石田小治郎の生涯と重ねて見る

私の曾祖父（ひいおじいさん）石田小治郎は、1902（明治35）年に単身アメリカへ渡り、ハワイを経てシアトルに上陸した。そして1916（大正5）年、ワシントン州の山中で死亡したと、戸籍に記されている。その場所を地図でさがすと、国境をまたいでバンクーバーのすぐ近くである。小治郎はどんな仕事をしていたのか、どうして死んだのかも不明であるが、日本に残された娘（私の祖母）に時折、手紙やお金が送られてきたという。たぶん映画にあるように、小治郎もきびしい肉体労働に明け暮れ、差別や排斥に遭いながら暮らしていたのではないか、日本の家族や娘を思いながら37歳の若さで死んでいったのだろうか、と想像する。

そんな思いもあって、私は映画の中に小治郎を探しながら見ていた。「朝日」チームが出来た時にはまだ小治郎は生きていたのだから、ひょっとするとあの粗末な球場のスタンドで野球を見ていたかもしれない。他にも日本人のチームがいくつかあったというし、アメリカ側にもあっただろう、どこかで野球をしていたかもしれない。もし早死にしていなければ、真珠湾攻撃の時に63歳、やはり強制収容所に入れられただろうか、その後の運命はどうなっただろうか？

大きな歴史と一個人の生涯が絡み合う不思議さと面白さ。いま私たちが生きている2015年の日本もまた、次の時代への激動の渦の中にある。